

武庫川水系河川整備計画に基づく取り組みに対する総括について

～ 第1期（平成23年度～平成27年度）を振り返って ～

平成28年9月

武庫川水系河川整備計画フォローアップ懇話会

兵庫県では、平成 23 年 8 月に今後 20 年間の武庫川の整備目標や整備計画をとりまとめた「武庫川水系河川整備計画」を作成した。同計画では、PDCA サイクルの考え方に基づいた進行管理を図るための仕組みを導入するとともに、フォローアップ懇話会からの意見を聴いて整備計画の次なる進行と改善につなげていくこととされている。

武庫川では、整備計画期間 20 年間で 4 分割した 5 年を 1 サイクルとして、第 1 期～第 4 期の期別計画を定め、これを目標とした PDCA サイクルの進行管理を実施している。

第 1 期（平成 23 年度～平成 27 年度）の取り組みに対して、下記のとおり総括する。

## 記

### 1. 総合的な治水対策

#### （河川対策）

河川対策については、堤防強化は本川・支川とも第一期計画より進んでおり、また遊水地、中流部の武田尾住宅地区の整備においては第一期計画のとおり進捗している。一方で上流部及び支川の整備等遅れている項目がある。第二期においては、期別計画の達成に向け、引き続き事業推進を図られたい。

#### （流域対策）

流域対策については、第一期計画に対して進捗率 35%にとどまり、目標とする効果量を達成するため一層の取り組みを要する。第二期ではため池での整備を推進するなど、貯留施設の整備に県・市ともに取り組まれたい。

また、田んぼダムや各戸貯留タンクの設置等の流出抑制対策については、住民の協力を得て、より一層の普及に努められたい。

#### （減災対策）

第 1 期においては各種の取り組みを県・市ともに積極的に実施し、洪水被害を軽減させるための取り組みを様々な形で推進している。今後は、水防法の改正に伴う浸水想定区域図の充実を図るとともに、その理解を進める普及啓発や防災の担い手づくりなど、県・市の連携により、減災対策のより一層の取り組みを図られたい。

### 2. 治水と整合した環境対策

河川整備にあたっては治水安全度を確保した上で、武庫川を特徴づける自然環境との調和に努められたい。

加えて、河川区域内の樹木についても、上記を踏まえ、植生管理のための予算を確保し、適切管理に努められたい。

### 3. 住民と県・市の連携による武庫川づくり

「参画と協働」による武庫川づくりを念頭に、県・市は施策や事業の実施状況等について情報発信し、地域住民等との情報の共有化を図り、住民と県・市の連携による「武庫川づくり」に取り組むように努められたい。

平成 28 年度 武庫川水系河川整備計画フォローアップ懇話会

【構成員】

敬称略・順不同

区分	氏 名	所 属 等	備考
学識 経験者	◎大 石 哲	神戸大学教授	
	宇田川 真之	人と防災未来センター研究主幹	
	上甫木 昭春	大阪府立大学大学院教授	
	竹 林 洋 史	京都大学防災研究所准教授	
	服 部 保	兵庫県立大学名誉教授	
地域 住民等	林 泰 三	神戸市建設局防災部長	
	尾 崎 和 之	宝塚市都市安全部長	
	藤 原 軍 次	尼崎市社会福祉協議会理事長	
	藤 村 晴 彦	三田市区・自治会連合会会長	
	大 北 慶 隆	公募	
	北 添 慎 吾	公募	

(◎は座長)